

令和2年度

学校自己評価表（報告）

学校運営計画				
学校運営方針	着実な学習態度と自主的にして規律ある生活態度を身につけ、すすんで国家および社会の発展に貢献する人物を育成する。			
昨年度の成果と課題	年度の重点目標	具体的目標		
<p>明確な数値目標を設定し、その実現のための具体的な方策を多く示す。目標に達しなかった原因を把握し、方策の改善を図る。</p> <p>保護者や地域の人々に対して、情報の提供と結果の公表の機会を多く持つ。</p>	学力の向上を図り、生徒一人一人の進路希望を実現する。	教科指導力の向上と年間教科時数1155時間の確保に努め、進路講話や面談等により生徒の意識向上を図る。		
	自主的にして規律ある生活態度を育成する。	挨拶の励行、家庭学習の定着、欠席・遅刻・早退の減少、学校行事・生徒会活動への積極的参加を促す。		
	体力の向上を図り、強健な心身を育成する。	学芸的・体育的行事の充実と教育相談やカウンセリングの充実を図る。		
	情操の陶冶を図り、倫理的資質を養う。	全校集会での訓話、読書指導、諸活動への参加。		
	教職員の勤務時間の適正化を図る。	学校閉庁日と定時退庁日を年間計画に設けるとともに、部活動に休養日を設ける。		
重点目標	具体的目標	具体的方策		評価
学校運営の適正化	教育課程の検討	生徒の進路実現を目指したカリキュラムの検討。		A A
	開かれた学校づくり	PTAだより・同窓会後援会会報の内容の充実。		A
		PTA総会（出席率40%）、学年PTA（出席率70%）。		C
		学校評議員会、地域の声を聞く会の開催。		B
		中学生体験入学の実施。		A
進路指導の充実	進路意識の高揚	進路講演会の開催。		B
		大学出張講義の開催。		B
	進路目標の実現	国公立大学合格者50人以上。		B
		進路希望の実現（就職希望達成100%・大学進学達成70%以上）		B
生徒指導の徹底	自己管理意識の形成	服装・頭髪指導の徹底。		A
		スマートフォン（携帯電話）等の指導の徹底。		A
		貴重品など私物の管理の指導の徹底。		B
	いじめをしないさせない態度の育成	学校生活等に関するアンケートの実施。		A
		面談・カウンセリングの充実。		A
生徒の自治活動の活発化	部活動の活発化	目標を設定した一層の活発化。		A
		効率的な練習の実施。		A
	生徒会活動の活発化	運動会・六高祭（文化祭）の一層の活発化。		—
		ボランティア活動への参加。		B

重点目標	具体的目標	具体的方策	評価		
学年指導 (1学年)	基本的な生活習慣の確立	遅刻・早退・欠席を少なくするために家庭との連絡を密にする。	A	A	A
		清掃監督を欠かさない。自教室以外にも目を配る。	A		
		生徒指導部の方針に基づき、連携して指導する。	A		
	主体的な学習態度の育成	授業第一。朝学習で、授業に向かう雰囲気をつくる。	A	A	
		課題や小テストを課し、家庭学習をする習慣を身につけさせる。	A		
		総合的な探究の時間の活動や手帳を効果的に活用する。	B		
学年指導の重点化 (2学年)	基本的な生活習慣の確立	あいさつと言葉遣いをきちんとさせ、諸活動（委員会、行事、部活動）の中核としての自覚と責任感を養う。	A	A	A
	学力の定着と進路目標の明確化	2時間以上の家庭学習時間の確保による学力の定着。	B	A	
		朝学習（朝読書）、週末課題、補習、各種模試等を通して、学力の向上・充実を図る。	A		
		学部学科研究、卒業生体験報告、大学出張講義体験の活用等を通して、進路目標の明確化を図る。	A		
学年指導の重点化 (3学年)	進路希望の達成	進路情報の周知（学年だよりと進路だよりの発行）。	B	A	A
		面接指導・小論文指導の徹底。	A		
		保護者面談での志望校決定のための情報提供。	A		
	学力の向上	大学入学共通テスト対策演習実施（30日/年）。	A	A	
		放課後の進学補習の充実。	A		
勤務時間の適正化	学校閉庁日の設定	週休日・祝日に年間12日以上設定。	A	A	A
		夏季休業中の平日に5日以上設定。	A		
	部活動の休養日の設定	年間で100日以上（少なくとも週休日等に50日以上）の休養日を設定。	A	A	
成果	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、実施できない行事などが多かった中で、最低限生徒に指導しなければならない教科指導や進路指導は実施できた。 目標を具体的に示すことで、指導も具体的になった。 学校自己評価によって問題点がより明確になった。 		総合評価		A